

2021年度ノロウイルス食中毒予防講習会（質問と回答）

No	質問	回答
1	冬に感染が増えるのは、カキなど2枚貝を喫食することによるものなのですか？ 湿度低下による、空気感染増加などが考えられるのですか？	ご質問ありがとうございます。感染症には季節性があるものとそうでないものがありますが、季節特異性の理由はよくわかっていません。空気の乾燥に伴って飛沫拡散が起こりやすいことが環境的にはあると思われます。冬場に感染が発生し、夏場もどこかで誰かに感染していることは下水調査でも明らかですが、発症に至りにくい理由はわかりません。
2	講習中の手洗いの説明で、最初の画面では手洗い15mlとなっておりました。 次の画面では15秒でしたので、15mlは間違いということで良かったですね？	引用している文献がそれぞれ違いますので、15秒と15mLです。使用しているウイルスも異なります。
3	ハンドソープ10秒×2は現実的ではないのでは？食品会社では、ハンドソープ30秒が一般的と思われます。 この場合の検証結果などありますか？	ご質問ありがとうございます。30秒での検証結果はありません。 論文における時間が10秒となっていますので、10秒での結果をお示ししています。時間を決めることより、決められた手洗い順序で手洗いを行うことが大切です。そのときにかかる時間はおそらく15-20秒程度かなと思います。そのため手洗いを確実にするために30秒という指標があるのでしょう。ただし、手を洗いすぎて手荒れを起こすとシワや手荒れのひび割れなどに入り込んだ病原体が除去しにくくなり、逆効果となりますので、手荒れ防止をお願いします。手洗い後、アルコール消毒をしますが、現在の手指用消毒薬の多くが保湿成分を添加しています。それでも手荒れがある場合は、共有ではない個人ユースの保湿クリームの使用を勧めます。それでも手荒れがある場合は真菌など原因がある場合もありますので、皮膚科を受診してください。
以下の質問は講習内容と異なりますが、ノロウイルスについての質問の回答となります。		
No	質問	回答
1	①ワクチンの開発について ノロウイルスに対するワクチンの研究開発は進んでいるのでしょうか？ 新型コロナウイルスのように重篤な症状や死に至るケースが少ないため研究に取り組む人が少ないのではないのでしょうか。	ノロウイルス ワクチンの開発は世界でいくつか進められています。 重篤な症状は出にくいですが、社会経済的に負担が大きいため、開発が進められています。 日本国内においてもワクチン株となるシードの開発が進められています。
2	②かきの中腸線のウイルス量について ノロウイルス食中毒発生期間中（10月～翌年4月位）の中腸線にはどれ位のウイルス量が蓄積されているのでしょうか。	試験法にもよりますが、中腸線 1 個あたり数個から数千コピーの検出データが報告されています。 出荷前の検査では最近では陰性のものが多いです。コピー数が感染性のあるウイルス量とイコールではないので、健康被害を起こすウイルス量の測定法や指標が求められています。
3	③かきの中腸線からのノロウイルスの除去研究について かきの中腸線からノロウイルスを体外に排出させるような研究に取り組まれているような事例がありますでしょうか	牡蠣の生産地では下水モニタリングを実施し、漁場の区分けによって汚染しにくい取り組みや、牡蠣の高圧処理によってウイルス不活化をした牡蠣がすでに販売されています。 また、収去検査や企業、漁協の自主検査を実施し、検査結果を公開しています。 http://www.city.sendai.jp/shokuhin/kurashi/anzen/ese/kensa/kaki.html https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/shoku-k/kakikensa.html